

令和2年度 学校評価 中学校結果

令和3年3月末 学校教育課まとめ

No.	学校名	1	2	3							4		5	表示以外の 評価分野
		中期的目標	今年度重点目標	学校自己評価結果							学校関係者評価		総合	
				項目 No.	分野	重点 関係	評価項目・取組内容	達成 状況	取組状況 改善方策	評価項目	実施方法			
1	精道中学校	○目標 「強さ・かしこさ・思いやり」～心を一つに。全員が輝く学校～ ○方針 一人一人の生徒の尊厳を尊重する教育を基盤として、すべての生徒が主体的・意欲的に活動し、ともに活動し、支えあい、学びあうことができる教育環境を整備する。	(1)創意ある教育課程を編成し、教育目標の実現を図る。 (2)生徒理解を大切にする生徒指導に努める。 (3)学力の定着と伸長を追求する。 (4)教職員の研究活動を充実し、社会の変化に柔軟に対応した指導ができるようにする。	2	1	学習指導	3	◎授業時間を最大限確保して計画的に授業を実施し、学力の定着を図る。 ◎公開授業、研究授業、自己研修等を通して確かな教科指導力の向上に努めている。	B	・「授業時間を最大限確保して計画的に授業を実施し、学力の定着を図るよう努力している。」は、高い評価である。今年度はコロナの影響で授業時数の確保が心配されたが、教職員が一丸となり、工夫を取り組んだ結果、必要な授業時数が確保できた。 ・今年度はコロナ禍により、研究授業や研究大会が中止、紙面発表となるなど、予定通り進まなかったことが評価として表れた。今後はオンラインなどによる研修方法も計画していきたい。	・「長年の蓄積と、最新の情報に基づいて個々に応じた丁寧な進路指導を行っている。」については、良好、おおむね良好との評価を得ている。今後は生徒一人一人と向き合い、丁寧な進路指導を進めていきたい。	・生徒・保護者・教職員アンケート(三者比較できるもの)と別に教職員自己評価アンケートを取った。 ・学校評議員が評価を行った。校内を視察していただき、学校だよりや全国学力学習状況調査等を参考に学校の状況説明をした。よく学校を理解していただいている。 ・一学期と三学期に学校評議員会を開き様々な視点から意見を頂いた。	・校舎がきれいで、ICTも進んでいると感じた。 ・生徒が落ち着いた、学習に取り組んでいる姿勢がよく見られた。 ・校則の見直しなど、いい取り組みをしている。 ・不登校の問題は課題、コロナの影響もあるのではないかと。	勤務時間の適正化
2	山手中学校	・学校教育目標である「豊かな心を育てたしかな学力を身に付ける」の達成を目指す。一人一人の生徒が自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、よりよい社会の担い手となることができる生徒の育成をめざして学校経営を推進する。	1 学習指導の充実と指導方法の工夫・改善に努める。 2 人権尊重の精神に立ち、寛容な心をもち、周囲に配慮した言動ができる生徒を育成する。 3 生徒指導の充実を図る。 4 個別のニーズに応じた特別支援教育の充実を図る。 5 保健・健康・安全教育を推進する。 6 学校と家庭、地域社会との連携を強化する。 7 教職員の資質能力の向上を図る。	1	1	生徒指導	3	・生徒指導部の方針のもとに、生徒理解に基づく「組織的な生徒指導」に努める。 ・基本的生活習慣の確立を図る。(時間を守る指導の強化) ・教育相談を充実させる。(インクルーシブ教育との連携) ・不登校生徒の未然防止及び早期発見、早期対応に努める。 ・「いじめ」の兆候を見逃さない。(情報の共有化) ・家庭・地域・関係機関との連携を図る。	C	・問題行動の未然防止や早期発見への取組みとして生活ノートの活用、欠席者への電話連絡や家庭訪問、個別懇談期間の設定、いじめアンケートの定期的な実施など教育相談を充実させ、生徒理解に努めた。また、生徒指導部会を毎週開催して生徒の情報を共有している。 ・事業によってはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、子ども家庭総合支援室、適応教室、警察などの関係機関と連携を図っている。 【今年度の新たな取組み】 ・生徒指導便りの発行 ・新型コロナウイルスに関するいじめや誹謗中傷がないように学校だよりや全校放送での呼びかけ。 ・制服選択の自由化、体操服登校、タイツの着用許可など校則の大幅な見直し。 ・別室登校生徒へのWeb授業 など	・新たな取組みも大事だが、登下校のあいさつが積極的に行える生徒が増えたい。目撃情報や持てる様子であれば、自然と地域の方に愛される学校になる。生徒会活動での地域交流も継続して欲しい。 ・中学生には、学習面でのつまずきが学校生活全体に影響を及ぼすことが多い。そのため、生徒指導において、学習指導の充実が欠かせない。理解が定着するよう指導を目指してもらいたい。先生に対する信頼や憧れが、生徒にとっては大きな動機づけになるので、生徒との信頼関係をより深めるように心がけて欲しい。	・生徒、保護者、教職員の3者に対して同じ質問をし、それぞれの意識の違いを比較して模索を続けていく。体育大会など工夫して実施し、できるだけ生徒の心に残る中学校生活を送れるように学校として努力をしてきたと評価いただいた。 ・その一方で、今年度はコロナの影響があることを理解した上で、学校目標の一つである「たくましい体力を身につける」に関しては、過去2年間もあわてずあまりイメージがないとご意見をいただいている。	・感染予防策を講じながら、生徒の学びを保障するという難しい課題に対し、学校として模索を続けていく。体育大会など工夫して実施し、できるだけ生徒の心に残る中学校生活を送れるように学校として努力をしてきたと評価いただいた。	
3	潮見中学校	目標、笑顔あふれる学校をめざす方針(「環境」清掃・整理・整頓をしっかりと行い、居心地の良い環境を作る(「生徒」お互いを尊重し、思いやりのある生徒を育てる(「教職員」コミュニケーションの充実と情報共有を図り、チーム学校として組織的に動く職場を構築する	1. 確かな学力の定着に努める。 2. 心通い合う生徒指導に努める。 3. 豊かな心の育成に努める。 4. 家庭・地域との連携を図る。	2	1	教育課程	1	○授業時間を最大限確保して、計画的に授業を実施すると共に学力の定着を図るよう努力している。 ○年間計画を見通して授業時数確保に努めている。	A	○夏季及び冬季休業日を短縮し、学期中にしていた個人懇談も夏季休業中に実施するなど、授業時間の確保に努めた。 ○効率的に教科内容を指導していくことや感染症対策の観点から、年間カリキュラムを再検討し、計画的に実施した。	○授業時間の確保がしっかりとできていて、受検もあるので、やり取りを進めてほしい。	○学期に1度、学校評議員会を開き(書面開催を含む)、学校だよりや学校活動記録写真等を用いて、学校の状況を説明した。	・3年間の経年を見ても、生徒・保護者の評価は全体的に良くなっている。 ・挨拶がよくできていて、登下校以外でもしっかり挨拶できる生徒がいる。 ・いじめに関しては、ネットでのいじめが分かりにくいので今後の課題となる。	生徒指導